

## 第32号

# 札幌響くらぶ

発行／札幌響くらぶ  
 (財) 札幌交響楽団内  
 札幌市中央区中島公園1番15号  
 (札幌コンサートホール内)

## 第7回札幌響くらぶコンサート開催 本年度1回目の交流会も



©佐藤雅英

5月7日(土)午後5時から、キタラの大ホールで第7回の札幌響くらぶコンサートが開催されました。

ゴールデンウィークの真っ最中とあって、例年に比べて入場者は少な目でしたが、尾高さんの指揮で聴く機会がめったにないチューバとコントラバスの協奏曲が、首席奏者の玉木さん、助川さんの独奏で演奏されました。お楽しみの指揮者にチャレンジを挟んで、後半は「白鳥の湖」をじっくりと鑑賞しました。

例年通りの高校生招待の外、石狩管内の中学生、視覚障害の方々の招待も行われ、皆さんちょっと変わったプログラムに満足されていたようです。

コンサート終了後、引き続き交流会がレストラン・キタラで行われ、会員、楽員の皆さん約95名が参加しました。上田会長、西村専務理事の挨拶の後、尾高さんの音頭で乾杯。いつもよりも和やかな交流



©佐藤雅英



©佐藤雅英

会の雰囲気、色紙を100円以上で買ってもらい楽員さんにサインしてもらおう企画では30枚用意した色紙があっという間に売り切れ、売り上げの約1万8千円はその場で札幌韓国公演に寄付されました。



札幌響くらぶは札幌を愛する人達の札幌応援団です



# 専務理事に聞く

財団法人札幌交響楽団  
専務理事

西村善信さん

に  
むら  
よし  
のぶ

札幌ファンには  
一人十倍のご声援を!!



## 西村善信さんのプロフィール

昭和21年、小樽市に生まれる。札幌円山小学校、向陵中学校を経て札幌西高校に進む。父の転勤で県立秋田高等学校に転校して卒業。

昭和44年に東北大学文学部を卒業、同年北海道新聞社に入社。広告局勤務等を経て、人事部長、小樽支社長を歴任。

平成16年6月、財団法人札幌交響楽団専務理事に就任し、現在に至る。

5月11日、財団法人札幌交響楽団専務理事に就任されて間もなく1年を迎える西村さんに、札幌の経営に関することを主として、お話を伺いました。

— 今日は札幌の音楽の面ではなく、主に経営面のことについてお話を伺います。まずは、就任1年を迎えられるご感想からお話しいただけますでしょうか。

西村 あっという間の1年でした。財政再建を行いながら、定期演奏会の二公演化に向けて楽団員の補充を進めるといった難しい課題を抱えた年でした。その定期公演の最初の昼公演で札幌44年間の最高の入場者数を記録しました。一番の感激でした。

— 札幌の経営状況については、ホームページにも公開されておりますが、現状について要点のみで結構ですので、会員の皆さんにご報告いただけますか。

西村 2年続けての収支均衡を持続できましたので、財政破綻という危機的状況は回避できました。私たちも楽団員と事務局が一体となって、収支改善のためにあらゆる努力を行いました。「札幌を残そう」という意気込みが多くの方々に伝わり、いろいろなご支援をいただきました。その先頭役の「札幌くらぶ」には大変感謝しております。

— 経営面では、現在のような社会・経済状況を考えると、難問は尽きないというところだと思いますが、当面する問題点にはどのようなものがありますでしょうか。

西村 当面する問題は、公的補助金の削減です。今年の4月からは、道と札幌市の補助金がそれぞれ1200万円削減されました。札幌の年間収入10億円のうち4億2千万円は、国と道と札幌市の補助金です。札幌に限らず、世界中のオーケストラはこうした公的資金に支えられています。北海道の補助金が、来年度以降さらに大幅に削減される見通しです。今も、楽団員の賃金7%カットを続けながら収支バランスを維持しています。もしも削減幅が大きければ、再び死活問題です。

— 札幌では、経営上の戦略として様々に新機軸を打ち出しての取り組みを進められていますが、経営面から見た札幌の将来像をお聞かせ下さい。

西村 ここ2年間の札幌改革の中で、新しい活動



に取り組みました。子どもたちとの「ワークショップ」もそのひとつです。楽団員は、全道各地で楽器をもって学校へ行きました。その夜、子どもたちと一緒に多くの親が札幌の演奏会に足を運んでくれました。

小編成の演奏も積極的に展開しました。また、札幌市は小学6年生16000人を対象に、「ファーストコンサート」を行いました。札幌40年を超える中で、この2年間ほど、札幌を聴いていただく人が増えたことはなかったと思います。オーケストラの経営に、一番大切なことは演奏会を聴きにきてくれるお客さんを沢山つくることです。そのために何をするかをしっかりと考えることです。日本のオーケストラは全国どこも大変厳しい状況が続いています。北海道の人たちに愛され、支援されるオーケストラであり続けることが、将来とも札幌が生き残れる道です。

—— いよいよ定期演奏会の二公演が開始されました。我々ファンも大きな期待を寄せ、ぜひ成功させなければと思っていますが、どのような見通しをお持ちでしょうか。

西村 定期演奏会の二公演は、札幌44年の夢でもありました。尾高音楽監督もかねてから、オーケストラのレベル向上には定期の二公演化が最高と提案しておりました。財政再建中に取り組むのは冒険かもしれませんが、楽団全体が前に向かって動き始めたこの時期こそ最適と判断しました。二公演化に向けて、楽員の補充も進めました。宮沢事務局長の尽力で素晴らしい人たちが入団しました。

4月28日、29日の最初の二公演の入場者は二日間で3100人を超えました。特に、2日目の昼公演は、1823人と札幌の定期公演の最高を記録しました。順調な滑り出しですが、全く気は抜けません。定期会員も400人以上増えて2000人に近づいていますが、二公演を持続するにはまだまだ定期会員が足りません。素晴らしいプログラムを組んでいますので、定期会員になっていただきたいとお願いいたします。

—— 今年は、2001年の英国公演以来4年ぶりに韓国での海外公演が行われます。英国公演の時は、ニューヨークの同時多発テロ発生の直後で、実施自体が危ぶまれ、我々ファンもやきもきさせられましたが、結果は実り多いも

のでした。今回の韓国公演の概要等についてお聞かせ下さい。

西村 国交正常化40周年を記念した交流行事「日韓友情年2005」の公式事業として、9月29日にソウルで「ソウル国際音楽祭」に出演します。30日は、札幌と交流の深い大田広域市で演奏会を行います。この間、北海道の観光誘致キャンペーンにも参加して、音楽を通して北海道、札幌市の宣伝をしてきます。同行ツアーも計画していますので、札幌くらぶの方も大勢参加してほしいと思います。

少し心配なのは竹島などをめぐる反日問題ですが、民間交流の「日韓友情年」行事は予定通り進めると聞いております。



—— いろいろお話しいただき、ありがとうございました。最後に、札幌ファンの皆さんへのメッセージをお願いいたします。

西村 「札幌良くなりましたね」とお褒めをいただくことが多くなりました。これに甘えることなくオーケストラとして一層高いレベルを目指して努力を続けます。あわせて人気上昇中の札幌ポップスなど、多くの人に親しまれるオーケストラを目指していきます。引き続きご支援をお願いします。日ハム、コンサドーレは、ドームに2万人応援に來ますが、キタラは2000人で満席です。札幌ファンの方には、お1人10倍のご声援をお願いします。

—— どうもありがとうございました。

西村 ありがとうございました。

(佐藤良次)



# 平成17年度札幌くらぶ総会行われる

平成17年度の札幌くらぶの総会が、定期演奏会の2公演化に合わせ、5月28日の土曜日午後1時からキタラ2階の大会議室で行われました。

冒頭、総会時の会員数が726名となり、目標としている1000名まであと一步に迫ったことが報告されました。

上田文雄会長の開会の挨拶に続き、来賓の財団法人札幌交響楽団の西村善信専務理事の来賓挨拶があり、議事が行われました。

議長には会員の佐々木甫さんが選出され、例年通り、16年度の活動報告、決算・監査報告、17年度の活動計画、予算案の審議などが行われました。詳しい総会の報告は別途郵送されますが、ここでは、16年度の活動実績、17年度の活動計画の中から特徴的な何点かをご紹介します。

## ●16年度の活動実績から

(1)札幌くらぶが札幌のパトネージュ（維持会員）になりました。

これは、昨年の総会で決議されたことで、15年度まで単独で主催していた札幌くらぶコンサートの準備金が、札幌との共催となった結果支出不要となったので、その準備金約百二十万円を「札幌支援特別会計」とし、様々な札幌の支援に役立てようということが総会で認められ、その中から毎年法人会員の会費を支出していくことになったものです。

(2)「ファースト・コンサート」が石狩管内まで広がりました。

上田会長が札幌市長選に立候補した際、札幌くらぶは「札幌市の小学生にキタラで札幌を聴かせてあげよう」という政策提言を行いました。それが、昨年度から札幌市内の小学6年生全員がキタラで札幌の生演奏を聴く「キタラ・ファースト・コンサート」として実現しました。私たちは、これを札幌市だけではなく石狩管内にまで広めたいと希望していましたが、札幌広域圏組合の理事長も兼ねる上田会長のご尽力もあり、17年度からは石狩管内の全市町村の小学6年生全員にまで拡大することになりました。

## ●17年度の活動計画から

(1)新たな活動を模索します。

札幌くらぶが発足して今年で9年目を迎えます。この間、札幌くらぶが取り組んできた諸々の活動は、スタンダードなものとして定着してきました。また、会員規模も拡大しました。このような状況を踏まえ、札幌くらぶは新たな活動の段階に踏み込む時期が来た、と総括されました。札幌のためどんな新たな活動が必要なのか、ファンクラブのあり方とは等々、検討すべき事項は多々あります。しかし、闇雲に場当たりのことをやっても、その成果は期待出来ないでしょう。そこで、17年度を新たな活動に向けての道を模索する年と位置づけ、音楽監督、有識者、札幌事務局、楽員などの方々と交えての勉強会、意見交換会などを積極的に行うこととしました。

(2)他のオーケストラのファンクラブとの交流を、更に発展させます。

過去において、仙台フィルハーモニークラブとの相互訪問、その中での山響ファンクラブとの交流などを行ってきました。今年、山響ファンクラブから山形での交流会開催を呼びかけられており、仙台フィルハーモニークラブも交え三者の交流を検討中です。広響フレンズからも参加したいとの申し出があり、札幌くらぶが核となって、ファンクラブの交流を推進していきたいと思えます。





## 印象に残る協演者②



1975年のメトロポリタン歌劇場日本公演の指揮者をしたヘンリー・ルイスは、77年に読売日本交響楽団が招聘し、9月14日(水)第174回札幌定期演奏会の指揮もした。

地方オーケストラ連盟(当時)の会議が9月9日に東京であったので、羽田空港で会い、一緒に札幌へ来た。鼻粘膜のアレルギーがひどいとかで、空気が動く機中では鼻水と涙がひどくなりしゃべれないほどになった。持ち合わせた抗ヒスタミン剤を「眠くなるんだけど」と手渡したら「今日は仕事が無いから」と一時間気持ち良く眠っていた。

翌10日、朝からの練習に札幌グランド・ホテルに迎えに行くと、浮かない顔をして出て来た。「燕尾服用のスーツケースのハンガー掛けが壊れた」と言う。修理に出そうと預かったのだがあいにく日曜日で、カバンの修理屋さんは休日だった。壊れた箇所をよくよく見たら、私にも直せそうだったので自宅に持ち帰り、ヤスリや金槌を使って直した。「日本は日曜日でも修理屋さんが直してくれる、素敵だね」と喜んでくれた。

ホテルから練習場へ行くタクシーの中で、最初の話が「ハンガリーを抜いたね」だった。

3回も問い直したら、やっと「ハンク・アーロンを抜いたね」と言っているのが分かった。ハンク・アーロンがハンガリーに聞えたのだった。9月3日に、巨人軍の王貞治(現ソフトバンク監督)が通算756本のホームランを打って、ハンク・アーロンの記録を抜いたばかりだった。ホテルの英字新聞で知ったらしく「いずれ抜かれるとは思っていたが」と、半ば悔しそうだった。ハンク・アーロンの実名はヘンリー・ルイス・アーロンだと教えてくれた。

モーツァルトの「フルートとハープのための協奏曲」を協演した細川順三氏(現N響、当時札幌のフルート首席奏者)とハープの野畑潤子さんは、口をそろえて「気持ち良く乗せて下さった」と感謝、感激だった。ブラームスの交響曲第1番はゆるぎない、密度の高い演奏を聞かせ、耳うるさい定期会員を大いにうならせた。

終演後一緒に食事に行ったら「海老、かには蕁麻疹が出るので」とシュウマイを食べる時にも「入っていないよね」と用心深かった。

この演奏会の数年後に亡くなったが、メトロポリタン歌劇場の女王だったマリリン・ホーンと結婚していたこともある端正な大物指揮者、また来て欲しかった。(竹津宜男)

## from 「札幌くらぶ」

### 定期会員の拡大にご協力下さい

ご承知の通り、今年度から札幌の定期演奏会の2公演化が実現しました。初回の4月定期公演は、いよいよ始まるという期待感や、協演者のウラディーミル・フェルツマン氏の圧倒的な好演が口コミで伝わったことなどによって、2日間で3000人を越える入場者があり、成功したと言えます。しかし、今後の長期的な展望という面からすると、2公演の成否の鍵となる定期会員の確保という面での不安は拭えません。札幌の事務局も、様々な企画を立てて定期会員増のための努力をしていますが、苦戦しているというのが実情のようです。現在、札幌くらぶ会員の約3割が定期会員になっていますが、札幌くらぶとしては、札幌応援の基本とも言える定期会員増にぜひ協力していきたいと考え、まずは会員の皆様の定期会員の割合を増やしたいと思っています。一人でも多くの会員のご協力をお願いします。



## PLAYER'S TALK

札幌交響楽団 ヴァイオリン奏者

いしはら  
石原 ゆかり さん

ご出身は

函館生まれの函館育ちです。

音楽との出会いは

音楽ではありませんが、父が教師でしたので、小さな頃からピアノでいろんな曲を弾いてくれて、それに合わせて歌を歌ったりしていました。まだ幼稚園に入る前の記憶ですから、それが出会いだと思います。

ヴァイオリンを習い始めたのは

小学校1年生の終わり頃からです。その前には、習うという程ではありませんが、ピアノをちょっとやりました。ヴァイオリンは自分でやりたいから習ったというのではなく、当時は内気な性格だったものですから、両親が心配をして、自分をアピールするような習い物をさせれば性格が変わるのでは、と考えたのだと思います。それで、一般的に多いピアノよりはヴァイオリン、ということになったようです。特にいやだとも言わなかったようです。

音楽を専門にやろうと思ったのは

何かきっかけがあったという訳ではなく、ずっと音楽に携わっていきこうという気持ちは小さい頃からありました。小学校の時に、作文で「人生設計」のようなことで、将来の自分について書いてごらんと言われた時に、プロの演奏家で何をしてこうしてというようなことを書いた覚えがあります。プロがどういふものかという、意識的なことは分らなかったのですが、とにかく演奏していきたいという意志だけはあったのだと思います。

実際にプロとしてと思ったのは

プロというものはそれでお金をいただくもの、という意識から言いますと、オーケストラに入ったのがきっかけと言えるかもしれません。今思うと、20歳くらいでしょうか、ただ自分で好きなことをして生きていける訳ではない、ということを実感しつつありまして、オーケストラの勉強もしなければ、



と思うようになりました。オーケストラに入ったのも、ソロだけではなくオーケストラの勉強もしなければ、というのがきっかけでした。

札幌に入団して意志が固まったのですか

いえ、今はオケの勉強をしているのだという意識でしたから、1年でやめようと思っていました。団体で音を作りあげていくということも分っていませんでした。そんな時に、当時いらっしゃったトランペットの杉木さんがよくお話しして下さり「とりあえず3年いけばオケの曲は一通り分ってくるだろうし、周りのいろんなことが見えてくるから3年いたら。そして、3年いけば、今度は5年いたら周りの人も、もっと君のことが分ってくるだろうし、相互理解も出来てくるだろう」ということをおっしゃって下さいました。それから、思えば20年ですから、不思議なものだと思います。

思い出に残る演奏といえば

ヴァーツラフ・ノイマンさんが札幌を指揮した演奏会です。もともとチェコの音楽や演奏家が好きでしたから、ノイマンさんが振った「わが祖国」、最高でした。ノイマンさんが話してくれた曲の情景も目に浮かび、オケもすごい集中力で、良い演奏だったと思っています。

これからやりたいこと希望は

アンサンブルのコンサートを、自ら主催してやっていきたいですね。自分のリサイタルなども含め、いろいろな形、多くの方々と、より高きを目指して勉強していきたいです。一生が学びですから。

ファンの皆さんに一言

今までもそうしていただいていたと思いますが、気長に見守っていただければと思います。



## 札幌交響楽団 打楽器副首席奏者

ふじわら きよひさ  
藤原 靖久 さん

### 音楽をやるようになったきっかけは

私の家は普通のサラリーマンの家庭でしたが、たまたまいとこがピアノを習っていて、それで、自分もやってみたくて習い始めました。確か3歳か4歳の時だったと思います。

### 打楽器になったのは

札幌の宮の森小学校の4年生の時、特別音楽クラブという、アコーディオンやマリimbaやピアノカと打楽器による編成のバンドが出来、クラスから何人かずつ選抜されてメンバーが集められました。クラスにピアノを習っている子が3人いて、ジャンケンで僕が勝ってメンバーになりました。その時に、男の子だから、という感じで打楽器をやらされたのが最初です。「魔笛」の序曲なんかをやったので、小学生としては結構ハイレベルでした。

### 音楽を専門にと思ったのは

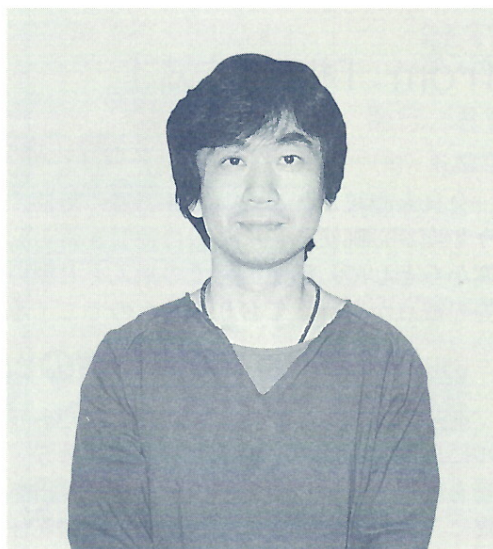
中学校の頃ですね。でも、その頃はピアノでずっといこうかなと思っていました。たまたま、その頃はバンドが流行っていて、ドラムセットなんかもやっていたのですが、中学校まではピアノと思っていました。ところが高校になると、ドラムセットにますますのめりこみ、このままドラムセットでいこうかなんて思い始めました。すると、親戚に音大を出た音楽の先生がいて「そんなことは雲をつかむような話だから、とりあえず音大に行きなさい」と言われ、3年の時から本格的に打楽器を習い始め、受験対策を始めました。

### プロを目指そうと思ったのは

ドラムセットをやりたいと思っていて、音大はそのための通過点という気でした。ピアノをやっていたので、クラシックにはもちろん馴染んではいましたが、東京に行ってから、コンサートで生の演奏を聴くようになり、すごいと思って、ぶっ飛んだという感じでした。それがきっかけとなって、バンドからクラシックに志望変更となりました。

### 札幌入団のいきさつは

音大卒業後も東京に残り、学生時代を含めて約10年間活動していました。その時は分りませんでした。後で考えると、当時はバブルの絶頂期で、ものすごく仕事が多くて十分食べていけるし、このままでいいかな、なんて思っていました。ですが、たま



たま、当時の札幌の打楽器の山本さんという方が京都芸大の先生になることになり、退団されました。それで、現在の首席奏者で私の先生でもある真貝さんから、オーディションを受けてみないかというお話があり、入団することになりました。

### 一番思い出に残っている演奏は

札幌に入団してから最初にやった「ボレロ」でしょうかね。指揮は小松一彦さんで、雪祭りかなんかのコンサートだったと思います。

### 趣味はお持ちですか

今は特にこれといったものはありません。以前は廃墟巡りとでも言いましょうか、炭鉱の閉山の跡地や鉄道の跡地を見たり、というようなことをしていましたが、いつの間にか最近はメジャー?になってしまい、やらなくなりました。

### 今後やってみたいことは

最近、札幌では小グループであちこち訪ねる活動をしています。打楽器もドラムセットを持ってあちこちに行っていました。ドラムセットはアコースティックな楽器にマッチングしにくいので、ちょっとエスニックな楽器を使ってやってみたい、ということはありませんね。

### 打楽器奏者からファンの皆さんに

打楽器というのは休んでいる時が多いと思われていると思いますが、演奏の中ではスパイスのような役割をしています。曲の中でも、大事なところにかかっています。ですから、非常にプレッシャーの強いパートです。その分、上手くいった時は非常に気持ちよく感じます。今後も、ファンの皆さんには僕たちが差し上げるものを受け取って、元気になっていただきたいと思います。(佐藤良次)



from 「札幌くらぶ」

## 会費の納入はお済みですか

会員を継続される方の会費納入の時期です。毎年お忘れの方がいらっしゃいます、ご確認下さい。今年度から郵便貯金による自動引き落としも行われておりますが、お申込みをお忘れの方は、来年度からとして、郵便振替での納入をお願いします。定期公演会場での現金による納入は、事故防止等の観点から行っておりませんのでご了承下さい。

## 東京公演のツアーが実施されました

前号でお知らせした、東京のすみだトリフォニーホールでの地方都市オーケストラフェスティバルに出演した札幌を聴くツアーが3月5・6日の一泊二日で実施されました。5日にはホテルに群響を応援する県民の会の小野会長と横田事務局次長がお出で下さり、貴重な意見交換をしました。更に、その日の夕刻に行われた首都圏在住会員との懇親会にもお二人は参加して下さいました。懇親会の席上、首都圏在住会員からは「東京支部を作る」という力強いお言葉もあり、有意義な一時を過ごしました。

6日のコンサートは、札幌で、チケットの売れ行きがはばかしくないとの情報を聞いていたので心配しましたが、当日券売り場に長い列が出来、ほぼ満席の状態でした。尾高さんの指揮で熱演し、東京のファンからも熱い拍手を受けていました。

## 東京支部会員からメールが来ました

東京での懇親会に出席された会員からメールが届きましたのでご紹介します。

先月の錦糸町の楽しい集い、ありがとうございました。

そして翌日の感動的なシベリウスはいまだに耳に焼き付いて、当分消えそうにありません。幸せな週末でした。さて、実は小生が定期会員になっている日フィル主催の催しが今夜、日フィル4月の定期に登場するマエストロ尾高を迎えて開かれました。

くつろいだ雰囲気の中、マエストロが音楽家を志望する契機になったことから始まり、BBC ウェールズから最近の札幌のことなど興味が尽きないお話が満載でした。特に札幌の音楽監督を引き受けたその裏話とかこれからの抱負など、まるで日フィルの集いであることを忘れ、札幌くらぶの例会であるかのようなひと時で、おおいに満足しました。そのなかでトランペットの首席に都響から、そしてチェロには東響から人材を得たことが披露されていました。マエストロも大いに乗っているようで札幌のこれからはますます期待がふくらむ思いでした。

先に今月の日フィルでラフマニノフの2番をやりますが、10月の札幌来演での聞き比べを楽しみにしております。

所沢市・相内志朗

## 仙台フィルハーモニークラブ来札

前号でお知らせしましたが、SPCの工藤会長以下8名の方々が2月25日に札幌へ来られ、翌日の定期を鑑賞されました。25日夕、ホテルルース札幌で交流会が行われ、札幌くらぶ、札幌事務局、小田札幌市議の札幌くらぶ関係者28名が出席しました。

## 編集後記

ついに、定期二公演が開始されました。尾高さんは常任に就任された時から、繰り返しその必要性を説いておられましたが、やっと実現しました。ある意味で、札幌というオーケストラが一流のオーケストラとして認められるか否か

ということを左右する重要な試みと言えるでしょう。ぜひ成功させ、定着させなければなりません。その鍵となる定期会員の拡大は、札幌くらぶとしても最優先、最重要課題として取り組まねばなりません。  
(佐藤良次)